箱組
＊M0319KKMAXQACC23031800000013＊
03月19日　神作業A版　【神P5】
ID=M0319KKMAXQACC23031800000013
編集地域：全域
2023年03月17日11時57分34秒
12段　0.0U×　72行　0.0U　（191倍　0.0U×　178倍　3.6U）
校正回数＝25　出力先＝ゲラPDF
建設分野の魅力40

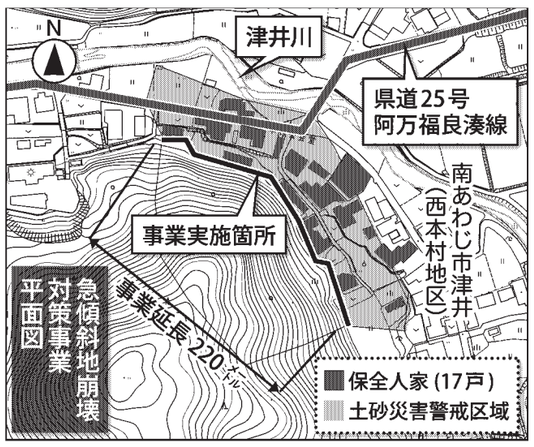
兵庫県は自然災害に備えて強い県土をつくるため、県内全域で砂防・治山事業などに取り組んでいる。近年は気候変動が原因で豪雨が増加し、土砂災害も激甚化。そのため、土砂災害対策として急傾斜地崩壊対策施設の整備が行われるなど、社会基盤整備に携わる人々の社会貢献度が高まっている。工事を発注する行政担当者、現場で働く施工業者にインタビューし、施設の整備効果や仕事のやりがい、こだわりなどを聞いた。

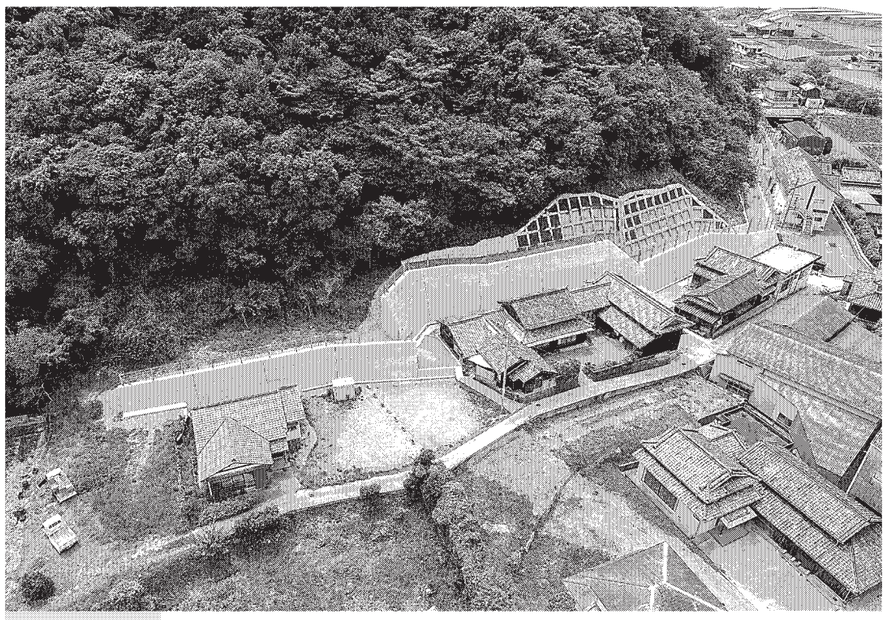
（取材協力＝兵庫県建設業育成魅力アップ協議会）

未来につなぐ
つくるひと・まもるひと

住民の暮らし守り充実

西本村地区急傾斜地崩壊防止工事
（南あわじ市津井）



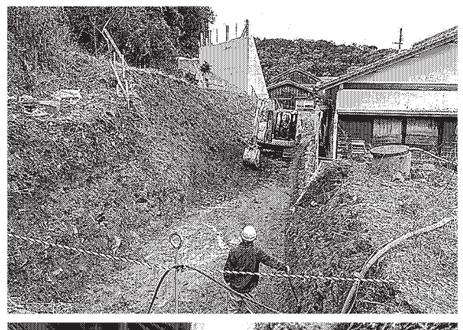


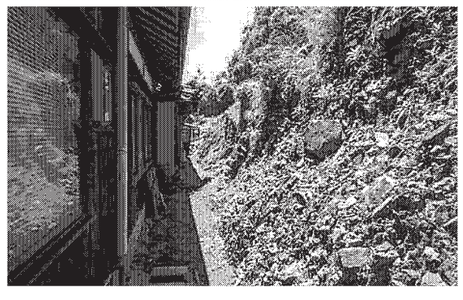
崩壊対策事業が完了した急傾斜地。工事前は斜面が荒廃しており危険な状態だった。早期着手で人家17戸、県道・市道の安全が図られた＝南あわじ市津井（西本村地区）

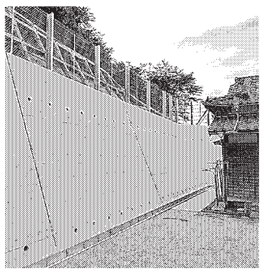
西本村地区急傾斜地崩壊防止工事　南あわじ市津井の急傾斜地に、重力式擁壁やのり枠（３面計450平方㍍）、落石防護柵を設置する工事。2018年度から21年度まで４期に分けて行われた。

兵庫県は佐用町で20人が犠牲になった09年の台風９号による災害（兵庫県西・北部豪雨）などを教訓に、自然災害から県民の命と暮らしを守るため「山地防災・土砂災害対策計画」を策定。第１～３次（09～20年度）計画で、人家等保全対策など737カ所を整備し、完成施設は豪雨の際に土石流を防ぐなどの効果を発揮している。現在は第４次計画（21～25年度）に基づき、自然災害に備えた強い県土づくりを進めている。

㊧「仮設防護柵」建て込みの様子。人家と裏山の間に設置、落石の防止、土砂流出などを防ぐ　㊦人家と山の幅がわずか2㍍と近接していて工事は慎重に行われた。重機の搬入や導線の確保、設置場所に苦労した



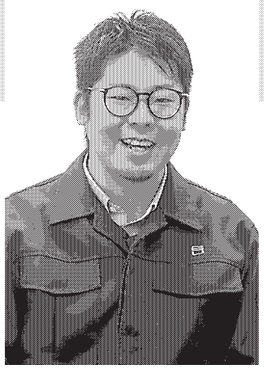




完成した擁壁。対象住民の安堵の喜びの声を聞いてやりがいを感じたという ▼

◀ 工事前の斜面の状況

県洲本土木事務所
ダム管理課兼河川砂防課
中嶋　友哉 氏



知識やスキル身に付ける

急傾斜地崩壊防止工事から、砂防堰堤や、河川護岸の整備、ダム管理施設の工事など幅広い公共事業の発注・監督業務を担う。平均して3事業ほどを同時並行する忙しい毎日。庁舎内で発注、積算などの事務作業をこなす一方で、毎日どこかの現場にも足を運んで施工業者や住民と調整を図る。兵庫県庁に入庁して3年目。現場で聞かれたことに即答できず、庁舎に持ち帰って上司や先輩に相談することがまだ多い。相談しやすい職場環境に対して感謝の気持ちでいっぱいだが、それに甘えずにもっと知識やスキルを身に付けて成長したいと思っている。

1995年1月、阪神・淡路大震災の1週間前に奈良県で生まれ、中学3年の時、芦屋市に引っ越してきた。昔から大きな構造物が大好きで、六甲山に登った時は山中で出合う砂防堰堤のスケールの大きさに魅せられた。就職で建設行政に関わりたいと思ったのは、ハード面を中心に兵庫県が震災から力強く復興する姿が印象に残っていたからだ。

道路、川、橋…。土木って実はすごく身近な存在で、生活に欠かせないもの。それを多くの人に伝えていきたいと思っている。

福田産業有限会社
柳川　浩一 氏

住民の安全安心が最優先

すぐ裏にがけ地が迫る人家を土砂災害から守るのが急傾斜地崩壊防止工事で、住民とコミュニケーションを図りながら進める。私は作業員の一人として、重機を操作するオペレーターなどを担った。ものをつくり上げていく過程に醍醐味を感じるし、気泡が入らずコンクリートをきれいに打てたときは気持ちいい。

最も心がけるのは、住民の安全・安心の確保。人家と裏山の間に仮設防護柵を設置して落石対策をしたり、雨天時は切り土面にブルーシートをかぶせて崩壊や土砂流出を防いだりする。

住民には工期の最初と最後のあいさつはもちろん、進捗状況も説明するなど言葉を交わす機会は多い。この現場はすぐ下の住民が社交ダンスのスタジオを営んでいたので、コロナ流行前にクリスマスのダンスパーティーへ誘ってもらった。社交ダンスは初めて踊ったので恥ずかしかったが、貴重な経験といい思い出になった。工事の完成を喜んでもらえたのは何よりうれしかったし、南あわじ市で生まれ育ったので地元の防災に携われていることにやりがいを感じた。

自然環境下で仕事をすることが多いので、もちろん夏は暑く冬は寒い。特に近年夏の暑さは厳しさを増しているが、やっぱりデスクワークより屋外で働く方が好き。扇風機の付いた空調服を着たり休憩時間を多めに取ったりして、少しでも働きやすいように工夫もしている。きっと体力に自信がある人には向いている仕事だと思う。

株式会社南淡路建設
西山延大 氏

斜面の観測に念入り注意

1年間で西本村地区内3カ所の急傾斜地工事の現場を指揮した。終わった後に感じたのは、達成感よりも安堵感。災害や事故を起こすことなく工事が済み、本当によかった。

急傾斜地崩壊危険区域に指定されるのは、傾斜度30度以上、高さ5㍍以上の急傾斜地。もともと危険な場所なのに、コンクリートでのり枠を設置するために斜面を削る時は、さらに崩壊の危険性が増す。万が一、工事中に山が崩れるようなことがあれば、下で暮らす住民と働く作業員たちの命を危険にさらすことになるからだ。

そのため杭を数カ所打って地点間の距離を定期的に測るなど、斜面の観測には特に注意を払った。また大雨時は工事を止め、不安定な場所をブルーシートで覆って監視に徹した。今回の工事では危険を感じる場面は一度もなく幸いだった。

バブル崩壊後の就職氷河期に建設業に就いて25年。土木施工管理技士や造園施工管理技士など三つの国家資格を持ち、数多くの技能講習も受講してきた。取得することで任される仕事が増えるだけでなく、年収増にもつながる。そういう意味では安定性のある仕事だと思う。

近年はICT建機の導入が進むほか、施工を管理するソフトやアプリも普及。例えば工事着手前に建物の正確な位置を出す「丁張り」など、従来は複数名で行う作業が1人でできるようになって省力化が進んでいる。人手不足に悩むこの業界に、若い人がもっと入ってきてもらえたらと願う。

株式会社宮本土建
棚田　清数 氏

設計図通りの出来に感動

現場監督として、多い時で10人を超える作業員を束ねた。この工事で最も大変だったのは、現場が狭かったこと。家屋と山が近接していて、その幅わずか2㍍ほど。落石対策の仮設防護柵は人力で掘削して設置。がけの上に本設する1本約200㌔の柱は人力ではとても運べないため、クレーンなどの重機を搬入する導線や設置場所に頭を悩ませた。ときには人家のカーポートの屋根を一時的に外す許可を住民に得て、工事を行わなければならないこともあった。建設工事はアバウトに見られがちだが、頭を使って工夫して進めなくてはならないことも多い。この現場は苦労したが、その分完成した時の達成感は大きかった。

事業を工期内で終えるようにスケジュールを管理するのも、現場監督の大事な業務だ。設計図をよく把握していなければ、しっかりとした工程を組むことはできない。この現場は時間的な余裕もあったので、ノー残業・土日休みを徹底できてよかった。休日にしっかり休んでこそ、平日にいい仕事ができる。私も週末は南あわじの沿岸やときには四国まで足を延ばして、趣味の海釣りを一日中楽しんでいる。

災害を復旧したり未然に防いだり、仕事を通じて地元に貢献できていることがうれしい。コンピューター画面で描いた設計図が実際の現場に出来上がった様子を見る時の感動はひとしおだ。自分が携わった工事が形として半永久的に残るところもこの仕事のいいところだと思う。